

4—26

1 (表紙)

添書

国御屋鋪先規より御請扱之趣并諸家古御書之写

伯耆国米子町人

村川市兵衛

大谷政太郎

2 (白紙)

3

(貼紙)

「文化十一年戌八月鳥取落合様へ

認差出候節此所_者村川由緒_ニ

無之候_ニ付除キ差出ス」

(貼紙下)

「右元文五年四月私共祖父之者儀

御公儀_江御訴詔之儀去翌歳寛保改元八月

御請扱之儀相済候付、同十二月廿六日從

松平相模守様

日光宮様_江為

御使者御聞役中を以_レ其筋從」

4

(貼紙)

「右同断」

(貼紙下)

「宮様乍恐私共祖父儀御頼被為思召候趣

御請被為仰達候御口上之写并右從

宮様御頼被為思召之趣御坊官万里小路

民部卿様より御宿坊迄被為仰進候所之

御紙上之写如左

護法院 万里小路民部卿

5

(貼紙)

「右同断」

(貼紙下)

「以手紙得御意候、然_{者兼而}

御存知被成候通大谷九右衛門

事京都御外戚清水谷

前大納言殿へ御心安御出入

仕候故彼御方より御頼有之

宮樣_{江茂}御目見等被仰付

候事御座候、此度九右衛門

御公儀_江願之筋相濟_元」

6

(貼紙)

「右同断」

(貼紙下)

「伯州米子へ罷帰候由

就夫九右衛門儀米子御城主

不相替只今迄之通万₍₄₄₎決

御憐愍之御申付被遣候ハ、

宮樣御悦可被思召之間

此等之趣無急度貴院より

御檀家御役人中迄宜御申

入可被成候、以上

7

(貼紙)

「右同断」

(貼紙下)

「 十二月十八日

右之通御座候付御請

御口上之趣御書付之写如左

從松平相模守殿

宮樣_江御請口上之趣

此度大谷九右衛門儀

御頼被為遊趣承知」

8

(貼紙)

「右同断」

(貼紙下)

「仕畏奉存候

九右衛門

御公儀^江御願申上候儀も

御座候、此以後右之儀相願候ハ、

役人共評儀も仕可遣之由

此儀ハ津田周防より内々^{ニ而}

護法院迄之口上^{ニ候}

十二月廿六日 護法院」

9

右之通御座候

(付箋)

「元文五年公儀^江願」

一 右願書之面^ニ書頭候通私共先祖之者より、尤祖父共
節迄

公方様^江

御目見被為

仰附候節

御紋之時服拝領仕候条、尤

大守様^江

1
0

御目見之節^茂先祖之者共儀

御紋衣拝領被為

仰附、今以右

御紋衣拝領頂戴仕罷在候、且又私共祖父之者

共迄江府相詰候節ハ例月朔日為御礼

大守様^江

御目見被為

仰附候付右祖父大谷九右衛門儀

1
1

御公儀^江御訴詔以後尤

(付箋)

「古相模様御法号」

大廣院様御代延享元年八月廿二日於

鳥府乍恐

御在国之節年頭

御目見之儀奉願候処、達
御聴、則以御書附願之通被為
仰附候之旨、尤

(付箋)

「荒尾大和殿」

大和様於御館御役人中様より被

1
2

仰渡候趣如左

(貼紙)

「此所相除」

(貼紙下)

「大谷九右衛門殿

牛尾金右衛門

上村惣右衛門

御用之儀有之候間

唯今

御館江可被出候、以上

八月廿二日

大谷九右衛門殿

牛尾金右衛門

上村惣右衛門

1
3

(貼紙)

「右同断」

(貼紙下)

「追而申入候、此紙面

昨晚可遣候処、夜ニ入

候之故今日遣候、何分

早御屋敷へ可被出候

以上

八月廿三日」

右之通御座候条、則御書

附之写如左

1
4

其方儀御在国之

節年頭

御目見願之通被

仰付候

子八月廿二日

右之通御座候

15

一 右本書ニ書蹟シ候通享保九年辰四月

竹嶋渡海越方之儀共従

御公儀御尋之節、猶又従

松平相模守様御尋之條々、則以

16

御書附被為仰出候趣如左

申渡之目錄出来

之節別紙ニ認之品

左之通り

一 從三拾三年三十壹年跡迄

遣候船頭^茂老人存命

17

不仕候^者其通を書印候事

一 此度召連候^茂老人三拾

三年より已前之水主ニ有之候

者其段^茂書印候事

一 唐人竹嶋^江参居候節家宅

^者捨不申兩人方之船方共之

小屋掛ケ残置夫々居申候ハ、其

通書印候事

18

一 件之節已前ニ唐人竹嶋^{三而}

見不申候ハ、其通書印候事

一 元祖之名只今之市兵衛

迄何代

一 九右衛門同事

一 竹嶋御免被遊渡海初り

年号等

一 右之儀御執持被遣候

19

御簾本衆御名并御執持

被下候由緒

一 新太郎様^江御老中より

- 御奉書之写
- 一 御紋之風見御免被遊候品
- 一 兩人先祖江戸^江御目見
- 罷下候初年号
- 享保九申辰年四月
- 20 右之通御尋ニ付御請書一通
- 差上候処、猶以祖父村川市兵衛儀
- 出府被仰附候趣如左
- 覺
- 一 村川市兵衛儀御用之事候間、早々当地^江
- 可罷越候
- 一 市兵衛当地^江罷越刻新太郎様御代
- 御老中御奉書可致持参候
- 21 大殿様御代荒尾内匠^江從宗對馬守殿
- 一 之御状可致持参候
- 一 其外古来より竹嶋渡海之儀ニ付覺書可有
- 之候間不殘持参可申候
- 一 市兵衛不覺ニ有之候^者存知候者召連
- 可罷越候、已上
- 六月日
- 右之通御座候就夫祖父村川市兵衛儀
- 22 乍恐出府仕御尋之次第委細御請
- 申上候条、尤右持参仕候所之從
- 對馬守様
- 内匠様^江被為預
- 御挨拶候御書之写如左
- 23 尚以庄五郎殿御在江
- 戸之由承候故江戸ニ此等
- 之通直申達候、朝鮮^{ニ而}之
- 馳走之様子^者弥ニ右衛門
- 定^而可申入候
- 一書令啓候然^者

庄五郎殿御領分
伯州之内米子

24

村川市兵衛代官
弥三右衛門竹嶋渡
海仕用所相仕廻
六月之末帰国之
刻被放風朝鮮国
之内府山之浦漂

25

流仕候処日本人
故於朝鮮表別^而
念を入此方へ被相
送候条、彼弥三右衛門
与七郎^ニ我等^者相
添送遣候委曲

26

渋川次兵衛可申入候
間不能一二候、恐々
謹言

宗對馬守

八月廿六日 書印

荒尾内匠殿

御宿所

27

右之通御座候

右祖父村川市兵衛儀江戸^江始^而罷下候

(付箋)「五代目之祖村川市兵衛

御認メ候事」

(付箋下)

「右祖父村川市兵衛」儀江戸^江始^而罷下候
節元禄二巳六月於
御国御屋館從

(付箋)「荒尾志摩殿」

志摩様

御公辺之儀万々蒙御差図候趣尤

(付箋)「荒尾但馬殿」

但馬様より米子御役所^江被仰達候御書之
写并右祖父村川市兵衛儀江府より罷帰候節

28

右為御礼擎愚札候之处御披露之為

御返翰(付箋)「并^ニ御代々様御書被成候」

(付箋)「荒尾但馬殿」

但馬様御書被成下候類、尤從

外様或^者年始御祝書差上候節右御披露之
為御返翰御書被成下候所相遺候写如左

一筆申入候然^者村川

市兵衛悴先頃江戸へ参

29

着申候得共相煩申由^{ニ而}

去ル六日荒志摩長屋へ

参万々御差図次第^ニ

可仕^与申^ニ付御聞役衆

被申談江戸^{ニ而}之首尾

具^ニ被申含候

殿様^江去ル七日首尾好

御目見仕候、村川市兵衛悴^与

30

在之候^{而者}ケ様之者共父子

公方様^江御目見難調候^{ニ而}

此度

公方様^江之御目見若調不

申儀も可有之と御聞役共

申就夫何^茂被致相談親

市兵衛儀^者年罷寄最早

江戸へ罷越儀難成^{ニ付}、此度

31

悴罷越候則名をも市兵衛^与

申候^与申込候^者

御目見調安可有之^与志摩

被存名改親之名^ニ被致候由

志摩より我等方^江右之趣

被申越候、此旨可被得其意候

一 親市兵衛儀早々名を

いヶ様共替申様ニ可申渡候

3 2

一 最早此已後^者親市兵衛

江戸^江不罷越忤市兵衛迄

参候様ニ親市兵衛^江可申渡候

一 村川儀江戸仕廻候ハ、直^ニ其元へ

帰候様ニと当春各へ申渡候得共

江戸より直^ニ当地^江罷越首尾

能候^而直^ニ当地^江参候様ニと

江戸^江之便^ニ村川方へ

3 3

家来方より申遣候、恐々

謹言

但馬

六月廿一日 書印

(付箋)「米子

町奉行」

柴山甚内殿

鷲見佐左衛門殿

3 4

白井七左衛門所迄飛札

殊以串海鼠一折到

来心入之段欣然候

公方様^江首尾能

御目見相济候由一段之

仕合候、猶七左衛門

可述候也

但馬

3 5

書印

九月十二日

村川市兵衛とのへ

飛脚殊雉子番

到来紙面之趣令
委聞候、入念段満足
申候、此度之願首尾能
相調一段之事_ニ候、謹言

3
6

(付箋)「荒尾修理殿」

荒修理

十二月十五日 書印

村川市兵衛殿

(貼紙)

「此所相除」

(貼紙下)

「修理年賀為祝詞
其地從町中飛脚
殊肴一種到来
令満足候、遠路」

3
7

(貼紙)

「右同断」

(貼紙下)

「被入念段一入候、猶
白井七左衛門より可述候
謹言

(付箋)「荒尾玄蕃殿」

玄蕃

正月晦日 書印

(付箋)「米子

町年寄共」

村川市兵衛殿

大谷藤兵衛殿

宮本三郎右衛門殿」

3
8

(貼紙)

「此所相除」

(貼紙下)

「為年甫之嘉儀

家頼等迄来札殊
一種到来欣然之至候
弥無異加年之旨
一段之事_ニ候、謹言

（貼紙）「乾上総殿」

上総

正月十三日

書印

村川市兵衛殿」

39

（貼紙）

「右同断」

（貼紙下）

「右之通御座候

附

當時天明三卯正月年始御祝書差上候_ニ付今以旧格

（付箋）「乾平右衛門殿」

（付箋下）「之通從」

平右衛門様右年始御祝書之為御返翰私_江御書被

成下候御書之写如左

為年甫之嘉儀

家来方迄来札

欣然_ニ候弥無異

加年一段事_ニ候、謹言」

40

（貼紙）

「此所相除」

（貼紙下）

「平右衛門

二月朔日 書印

村川市兵衛殿

書状令披見候如来意

新正之慶賀申籠候愈

御無異加年旨珍重存候

平右衛門殿堅固候被致」

41

（貼紙）

「右同断」

（貼紙下）

「超歳候、為年甫之嘉儀

紙面之趣遂披露候処

被入念候儀、則被及書中候

恐々謹言

林新兵衛

二月朔日 書印

砂川源五右衛門

書印

村川市兵衛殿」

4
2

右之通御座候

一 御入国已来、尤私共祖父之者迄例歳竹嶋

渡海仕候節

（付箋）「因州鳥取」

鳥府御用之趣以御注文被

仰付候所之御書付并御用之品々被

召上候節御小目録被成御渡候々様之

類も余夥所持仕候処及紛失申候、尤相残候

4
3

御書附之写如左

覚

一 上々串鮑 五千貝

一 上串鮑 三千貝

一 中串鮑 貳千五百貝

一 上々丸干 三千六百貝

一 上丸干 三千貝

一 腸漬蛸 貳百貝

4
4

一 鮑腸塩辛 壹斗五升

一 木耳 貳斗

右之品々

殿様御用也

牧野清左衛門

正月十一日

村川市兵衛殿

4
5

竹嶋串鮑目録

一 上々串鮑 拾五連

一 上 串鮑 拾五連

一 上丸千鮑 三百貝

一 中 串鮑 七拾連

一 下 串鮑 三百貝

一 腸漬鮑 壺斗

一 腸塩辛 壺斗

4
6

一 木くらけ 五升

右者

大殿様御用候、以上

牧野清左衛門

正月廿九日

村川市兵衛殿

4
7

覚

一 中々串鮑 三拾連

一 中 丸千 五百貝

一 下 丸千 貳百貝

一 腸漬鮑 百貝

一 腸塩辛 八升

右之通

老州様御用ニ候

4
8

牧野清左衛門

正月廿五日

村川市兵衛殿

覚

一 上々串鮑 貳拾三連 内 五連市兵衛江戸土産ニ被上遣拾八連ハ此方へ被召候

一 上ノ串鮑 百連 内 貳拾五連ハ市兵衛へ被遣候七拾五連ハ此方へ被召上候

一中 ノ串鮑 百拾連 内 三拾連ハ市兵衛へ被遣候
八拾連ハ此方へ被召上候

49

一 下ノ串鮑 百拾連 内 拾貳連ハ市兵衛へ被遣候九
拾八連ハ此方へ被召上候

一 下々同百三拾八連ハ不残市兵衛へ被遣候
右串鮑都合四百八拾老連

内 上々上中下合貳百七拾老連ハ此方へ被召上候
上々上中下々合貳百拾連ハ市兵衛へ被遣候

一 桐ノ木拾本之内 太キ能木三本被召上候残
る七本ハ市兵衛へ被遣候

一 油木海月 此方御用無之候

一 上々串鮑直段老連ニ付 丁銀七匁宛

一 上同 直段老連ニ付 同五匁九分宛

50

一 中同 直段老連ニ付 同四匁貳分宛

一 下同 直段老連ニ付 同三匁老分宛

右之直段ニ被召上候間左様可被仰渡候

一 桐ノ木 直段付無御座候拾本之内太キ能木

三本直段可被仰下候、以上

山住源右衛門 印形

寛文四年六月十八日

宮田吉左衛門 印形

51

大脇太左衛門殿

坂川文左衛門殿

金万八右衛門殿

右之通御座候

一 右竹嶋渡海御禁制之旨元禄九年子ノ八月

於鳥府被仰渡、翌元禄十年丑八月

祖父村川市兵衛儀江戸江罷下竹嶋渡海

52

御禁制之趣御請申上候

(貼紙)

「是より兩度之控相残之写迄除」

(貼紙下)

「御公儀^江指出候所之書附并」

御国屋敷^江御歎之願書差出候、右兩度之控
相殘之写如左

乍恐口上之覺

一 去年子之歳八月上旬従

松平伯耆守殿被仰渡候、此度以

53

御奉書竹嶋渡海之儀向後御制禁被仰付候条
其通相守可申之旨御座候、其段奉畏候、以上

伯州米子町人

元禄⁺元年丑九月日

村川市兵衛

乍恐口上之覺

(貼紙)

「是より除」

私儀先祖より竹嶋渡海之所務を以渡世仕候処
去秋竹嶋渡海之儀制禁被為仰附當時

54

渡世之経営難相成迷惑至極奉存候、大屋九右衛門

世^者忤^ニ幼少^ニ罷在候故私義此度御当地^江罷越

申候何とそ殿様御威光を以渡世之願も

仕前々之通御目見奉願度奉存候、恐多奉存

候得共以御慈悲右之願御取上ケ被為

下候ハ、難有可奉存候、依之右之段奉願候、以上

元禄十年丑九月廿一日

村川市兵衛

55

(付箋) 「国屋敷聞役」

吉田平馬様

小谷伊兵衛様

右之通御座候、尤右享保九年閏四月

鳥府御尋之條々御請書忝通差上候

写如左

乍恐口上之覺

一 三拾三年より三拾壹年跡迄竹嶋^江渡海之船頭

56

水主存命^{ニ而}居不申候、雲州并隱岐国より

過半召抱申候、右之所之者存命^{ニ而}罷在候哉
此段不奉存候

一 三拾三年已前竹嶋^江渡海仕只今相残居申候
もの五人御座候、内式人^者廻船^{ニ而}罷出宿^ニ居不申候
残三人之内式人^者八十余^ニ罷成申候、此度召連
申候七十式歳^ニ罷成申候

一 此度召連候弥三兵衛と申水主ハ三拾三年より已前

57

渡海仕候者^{ニ而}御座候

一 唐人竹嶋^江参居申候節自分小屋拵申候哉
^与被成

御尋候、自分拵申候様子^{ニ者}相見不申候、毎年
此方より拵候小屋^ニ居申候由水主とも申候
一 三拾三年已前竹嶋^{ニ而}唐人見申候哉と被為遊
御尋候、元和年中以後唐人見不申候由其節
申上候

58

一 私共先祖何代渡海仕候哉^与被遊

御尋候村川市兵衛儀三代已前より渡海仕名^茂
三代共^ニ市兵衛^与申候

一 大谷九右衛門儀唯今迄四代竹嶋渡海

御免之節^{者甚吉与}申候後三代ヲ九右衛門と申候
一 竹嶋渡海被為遊

御免候年号

御目見仕候年号并其節御執持被遣候

59

申上候年号月日相知不申候

一 御紋之風見之儀代々蒙御免候、是又

御免之品合相知不申候

一 元禄十年丑八月村川市兵衛儀江戸^江罷越

殿様御威光を以竹嶋渡海之儀相歎候得共
嶋之儀^者相調不申候由^ニ付大勢水主共難儀仕候
故乍恐当時存寄之儀共御願申上候得共勝手
必至と取続不申其上病氣^ニ付同十六

60

未年三月於

御国屋敷御暇願在所^江罷歸候、以上

村川市兵衛

享保九甲辰年閏四月三日

大谷九右衛門

右之通御座候

6
1

(貼紙)

「阿部御家御

主従様古御書之写

如左」

6
2 (白紙)

6
3 (白紙)

6
4 (白紙)